



最終回 『大学の仲間たち』 〈拡大号〉

自然環境教育センター長
前田喜四雄

1995年春号から連載されてきた『大学の仲間たち』。執筆者である、本学自然環境教育センター長・前田喜四雄教授がこの春で定年退職されることから、今号で最終回となりました。そこで今回は、前田センター長に『大学の仲間たち』への思いや、自然への思い、学生たちへの思いを伺いました。

広報誌に寄稿を始めたきっかけをお教えください。

かつて本学に、ほぼ月刊で発行していた「学報」という冊子があり、表紙で植物学専攻の先生が、大学構内の植物を紹介されていました。この先生が退官されたあと、1995年4・5月合併号から私がこれを引き継いで、大学内の動物を紹介するようになったものです。学報には、大学構内で見られる鳥類を15回紹介しました。ところが、鳥の写真の手持ちが少なくなり、後半は3回チョウを紹介しました。従って、「大学の仲間たち」はこれを引き継ぐ形で、主にチョウを紹介しているわけです。

「仲間」を選んでいくのですが、

最初の頃、身近に見かける生き物ということと、児童や園児たちに人気のトカゲを紹介しようとした。ところが、その写真が大写し過ぎたのか編集担当者から「もっとかわいいのがない」と言われてしまいました。(笑)そこで、その後は「身近な」ほかに、「かわいい」と親しみを持ちやすい「写真が準備できる」という観点から、紹介する動物を選びました。

寄稿に当たっての苦労はありましたか。

最初は写真にせよ生き物情報にせよ、日頃の蓄積があったので、まったく苦労はなかった。

す。ただし、最近では大学での生活にゆとりがなくなり、ゆつくりと大学内で生き物を観察する時間がとれなくなりました。ましてや動物はじっとしていないため、写真を撮るにはチャンスが非常に少なくなり、いきおい「身近」が「親しみやすい」とかは考慮できなくなって、これまでに写真の手持ちがある生き物の紹介になってしまいました。

実際にさまざまな「仲間たち」のうちで、自身で一番印象に残っている「仲間」は何ですか。

原稿が没になったトカゲですかね。(笑)そのほかに、大学の仲間としてヘビの仲間が数種いるのですが、トカゲが敬遠されるならば……これらも遠慮してしまいました。もっとも、チョウ以外にも昆虫類は、本学構内で無限に近い種を見かけます。これらも紹介したかったですね。

本学や奈良の自然環境における魅力は何ですか。

本学構内は、本当に良い自然環境が残っていました。かつては、構内に天然もののスズムシが鳴いていたわけですから。それが大学構内の整備に伴って、芝生に樹木が疎生するヨーロッパ的な環境(実は雨が少なく、これしかできないという条件から成り立っている)に変わってしまい、絶滅してしまいました。もっとも、マツムシは分布が狭められ極限されてしまいましたが、それでもまだ細々と鳴いています。と

「このように、本学構内にかつてあった、良い自然環境がなくなってきたのは寂しく限ります。しかし、このような実態を嘆く声に配慮し、最近になって、「教育研究上の保存緑地」として、「見草ぼうぼうで見栄えが悪いように見える自然環境を残すようにはなってきました。このような大学構内の自然環境ですが、本学の北端にある側溝では、まだ細々とシジミも世代交代をしていますので、他大学の構内に比べれば、まだまだ自然環境に恵まれていると言えるでしょう。

「万葉集の中に、ウグイスよりもたくさん取り上げられている鳥にホトトギスがあります。かつてはウグイスよりも身近な関心を持たれる鳥だったようです。シーズンには、本学内でも奈良公園で鳴いているこの鳥の鳴き声を聞くことができます。しかし、ほとんどの学生はホトトギスの鳴き声を認識していません。せめて本学に在学している間に、この鳥の鳴き声を聞いて欲しいと思います。面田(前田)「タックキョキョカキョク」(特許許可局)「と鳴くのは何かだ。」

創刊からの「仲間たち」1995～2009

1995	〈春〉 ヤモリ(幼体)	1999	〈春〉 ツバメシジミ	2003	〈秋〉 アサマイチモンジ	2007	〈夏〉 クロコノマチョウ
	〈秋〉 フクロウ		〈秋〉 キタテハ	2004	〈春〉 モンキアゲハ		〈秋〉 チョウトンボ
1996	〈春〉 ベニシジミ	2000	〈春〉 ツマグロヒョウモン	2005	〈秋〉 ナガサキアゲハ	2008	〈春〉 アカタテハ
	〈秋〉 スジグロシロチョウ		〈秋〉 キアゲハ		〈合併〉 ヒカゲチョウ(ナミヒカゲ)		〈夏〉 コムシジ
1997	〈春〉 ウグイス	2001	〈春〉 ツマキチョウ	2006	〈春〉 ウスバツバメガ(ウスバツバメ)	2009	〈秋〉 ヤマトシジミ
	〈秋〉 タヌキ		〈春〉 サトキマダラヒカゲ		〈夏〉 メスグロヒョウモン		〈春〉 アオスジアゲハ
1998	〈春〉 ジャコウアゲハ	2002	〈秋〉 イチモンジセセリ	2007	〈秋〉 オオチャバネセセリ		〈夏〉 クロアゲハ
	〈秋〉 アゲハチョウ	2003	〈春〉 イノシシ		〈春〉 コチャバネセセリ		〈秋〉 ヒメウラナミジャノメ

実際の自然に触れることです。仮想自然以外の何もでない、パソコンやテレビなどからの知識が増えれば良い、という現在の流れは非常に危険なものだと思っています。「これは便利だ、疑問の答えを正確に手取り早く得られる」などという考えは、いわば本当の環境教育に逆行するものであると思っています。

最後に、学生へのメッセージをお願いします。(特に教員を指す学生に対して)

小学校学習指導要領の「生活」の目標に、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を

